

6日 土曜

ヨシュア

14:1 イスラエルの子らがカナンのでゆずりとして受け継いだのは、次のとおりである。祭司エルアザルと、ヌンの子ヨシュアと、イスラエルの子らの部族の一族のかしらたちは、その地を彼らに

14:2 相続地としてくじで割り当てた。

【主】がモーセを通して、九部族と半部族について命じられたとおりである。

14:3 二部族と半部族には、ヨルダンの川向こうにモーセがすでに相続地を与え、レビ人には彼らの間に相続地を与えていなかった。

14:4 ヨセフの子孫はマナセとエフライムの二部族になっていたからである。また、レビ族には、住む町と所有する家畜の放牧地以外には、何の割り当て地も与えなかった。

14:5 イスラエルの子らは【主】がモーセに命じられたとおりに行き、その地を相続地として割り当てた。

14:6 ユダ族の人々がギルガルのヨシュアのところにやって来た。その一人ケナズ人エフネの子カレブがヨシュアに言った。「【主】がカデシュ・バルネアで、私とあなたについて神の人モーセに話されたことを、あなたはよくご存じのはずです。

14:7 【主】のしもべモーセがこの地を偵察させるために、私をカデシュ・バルネアから遣わしたとき、私は四十歳でした。私は自分の心にあるとおりを彼に報告しました。

14:8 私とともに上って行った私の兄弟たちは民の心をくじきました。しかし私は、私の神、【主】に従い通しました。

14:9 その日、モーセは誓いました。『あなたの足が踏む地は必ず、永久に、あなたとあな



たの子孫の相続地となる。あなたが私の神、【主】に従い通したからである。』

14:10 ご覧ください。イスラエルが荒野を歩んでいたときに、【主】がこのことばをモーセに語って以来四十五年、【主】は語られたとおりに私を生かしてくださいました。ご覧ください。今日、私は八十五歳です。

14:11 モーセが私を遣わした日と同様に、今も私は壮健です。私の今の力はあの時の力と変わらず、戦争にも日常の出入りにも耐えるものです。

14:12 今、【主】があの日語られたこの山地を、私に与えてください。そこにアナク人がいて城壁のある大きな町々があることは、あの日あなたも聞いていることです。しかし【主】が私とともにいてくだされば、【主】が約束されたように、私は彼らを追い払うことができます。」

14:13 ヨシュアはエフネの子カレブを祝福し、彼にヘブロンを相続地として与えた。

14:14 このようにして、ヘブロンはケナズ人エフネの子カレブの相続地となった。今日もそうである。彼がイスラエルの神、【主】に従い通したからである。

14:15 ヘブロンの名は、かつてはキルヤテ・アルバであった。これは、アルバがアナク人の中の最も偉大な人物であったことによる。こうして、その地に戦争はやんだ。

カナンの地を勝ち取れば安泰かということ、そうではありません。人間は取り分けて仲たがいのための領域で、部族が自己主張ではなく主に従ったことを表します。互いの納得には、人の意向が入らない領域での決定が必要です。

教会でもどちらの意見が採用されるかというような決断に迫られるときがあります。互いに主の御心と納得することが重要です。(多くの場合、信仰の弱い人の言い分が通り、その後愛を持って相手を受け入れた人が祝福をうけるようです...)

カレブは有力者でしたが安泰な土地を求めずに、むしろ更なる働きを買って出ました。そこに主の祝福はあるのです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

